

## 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立北巽小学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

○北巽小学校においては、「自尊感情の低さ」「荒れる子ども」「学力の低さ」が課題と考えられ、「学校全体で取り組むポジティブ行動支援（SWPBS）」に取り組んでいる。今年度で「エビデンスベースの学校改革」の導入校は5年目となり、さらに学力向上や生活指導上の問題等の学校教育課題解決ができる学校組織づくりを進めることができた。また、「学力向上支援チーム事業」重点支援校となり、学びサポーターの活用や放課後学習指導等にも取り組んでいった。

**【安全・安心な教育の推進】**について

学期に1回、「いじめ・いのちを考える週間」を設定した。毎月の「いじめ不登校等防止対策委員会」で、いじめ・不登校・その他問題行動等について情報共有し、解決に向けての共通理解を図った。「心の天気」や「生活指導記録シート」等により、客観的に児童の実態を考察し、日々の生活指導に生かしていくことが大切である。学校全体で取り組むポジティブ行動支援（SWPBS）の取り組みを進めていった。今後も、「強調週間」や「いいところみつけ週間」等の学級や学校全体での取り組みを通して、児童の自己肯定感を上げていくことができていた。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**について

タブレット等 ICT 機器の活用によって、児童の考えを深めたり、広げたりする交流活動を大切にすることができている。引き続き、どの学年も授業中に積極的に話し合い活動を取り入れていく。学年の児童の実態に応じた話し合い活動の方法を工夫して取り入れ、自分の考えを深めることができた実感を持たせるようにしていった。また、「授業におけるポジティブ行動支援計画シート」を活用し、「わかる授業からできる授業」の指導方法を工夫することができてきていた。しかし、学習意欲は高まってきているが、基礎学力の定着や学力向上の指導法の工夫等にはまだまだ課題がある。

体育科の授業で、児童の運動意欲を高めるために、指導内容を工夫していった。年間通じて、「元気モリモリランド」等を学校全体で取り組んでいった。保健指導・食に関する指導や食育週間、「元気モリモリ週間」等で、早寝・早起き、朝ごはんを呼びかけ、進んで運動を行うことができるように取り組んでいった。保護者の協力が必要で、保健日より、給食日より、食育通信やホームページ等により、家庭の啓発も継続していく。

**【学びを支える教育環境の充実】**について

デジタルドリル（ナビマやミライシート）や心の天気、連絡帳、発表ノートを利用した意見交流等で、ほぼ毎日学習者用端末を活用することができた。働き方改革を意識して、ゆとりの日やNo会議デーを設定して実施することができた。図書館司書や図書館ボランティアによる読み聞かせを実施することができた。学年によって、読書の時間の確保が難しくなっている。読解力の向上においても、読書活動を工夫していく必要がある。○来年度も、「エビデンスベースの学校改革」の取り組みを学校教育活動の基盤として位置づけ、本校の教育課題を解決できるようにしていきたい。

カリキュラムマネジメントの観点から、各教科の年間指導計画を作成する必要がある。（「食育」「国際理解」等をテーマにして作成する。）

## 2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進
<ul style="list-style-type: none"><li>・達成状況に関しては概ね妥当である。</li><li>・学校全体で生活指導聞き取りシートやいじめアンケートを活用し、データをもとに次年度への引継ぎを進めるとともに、引き続き対策や対応に取り組んでいく。</li></ul>
年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上
<ul style="list-style-type: none"><li>・達成状況に関しては概ね妥当である。</li><li>・「授業におけるポジティブ行動支援計画シート」を活用し、「わかる授業からできる授業」の指導方法を工夫していった。学習意欲は高まってきているが、基礎学力の定着や学力向上の指導法の工夫等にはまだまだ課題がある。</li></ul>
年度目標：学びを支える教育環境の充実
<ul style="list-style-type: none"><li>・達成状況に関しては概ね妥当である。</li><li>・デジタルドリル（ナビマやミライシート）や心の天気、連絡帳、発表ノートを利用した意見交流等で、ほぼ毎日学習端末機を活用することができた。</li></ul>

## 3 今後の学校園の運営についての意見

<p>○運営に関する計画の最終評価について詳しく説明があり、十分に理解できた。</p> <p>○校内調査で「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 92%であり、毎年割合が高くなっている。「いいところみつけ」等、学校全体で取り組むポジティブ行動支援（SWPBS）の取り組みの成果がでてきているという意見をいただいた。</p> <p>○経年調査結果で「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合が 85%で指標を下回っているので、学校全体の「いじめ・いのちについて考える週間」や学級での取り組みを継続して、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識や気持ちをはぐくんでもらいたい。</p> <p>○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果について説明があり、十分に理解できた。男女ともに全8項目中5項目で全国を上回る結果が出ていた。体育科の学習や「元気モリモリランド」、出前授業などの取り組みを通して、今回あがった課題面も克服してもらいたい。</p>
--